

大野英子

(埋蔵文化財センター学芸員)

婦負地域は、富山県を東西に分かつ呉羽山丘陵南部に位置し、神通川を遡上した富山平野の奥地にある。弥生時代後期後葉、この地域には墳丘の四隅が張り出す特異な形状の墳墓が現れた。それは山陰地方に原形をもつ四隅突出型墳丘墓であった。古墳出現期を通して連綿と築造されたこの墳墓は、やがて大型前方後方墳の勅使塚古墳、王塚古墳を誕生させるまでに発展した婦負社会の基盤づくりに大きく寄与した。本稿では、四隅突出型墳丘墓からみる古墳出現期の婦負社会について若干の私見を述べたい。

首長墓の出現

弥生時代後期後葉から終末期、婦負地域には呉羽山丘陵、山田川流域、井田川中流域の3つの小地域集団から成る共同体が形成されていた。彼らがシンボルとして掲げたのが四隅突出型墳丘墓であり、呉羽山丘陵と山田川流域の丘陵上に連続的に築かれた。当時、県内の墓制の主流は小規模な墓が連続する方形周溝墓であり、特定個人墓が集団墓から大きく離脱することはなかった。そのなかで墳丘の規模や形態、あるいは墓域の区別化によって隔絶性をもたせた四隅突出型墳丘墓は、婦負社会の成熟度を際立たせているといえる。

現在、婦負地域には大型（主丘部一辺 24～25m※富崎3号墓のみ 22m）4基、中型（主丘部一辺 20m前後）2基、小型（主丘部一辺 14m前後）1基の計7基の四隅突出型墳丘墓が確認されている。ほかに呉羽山丘陵上の3基の墳墓（大型2基、中型1基）もその可能性が指摘されており、これらを含めると計10基を数える。

それではこれらの墳墓に葬られたのは、一体どのような立場の人物だったのだろうか。婦負地域のように複数の集団から成る共同体社会では、水田稲作を始めとした共同作業の指揮、集団間の利害調整、あるいは対外交渉（特に遠隔地域）などに携わる代表者の存在は不可欠である。大型墳墓の被葬者は、墳墓築造に投下する労働力から考えてもその役を担った人物と推測され、婦負地域では最初の首長墓として位置づけて大過ないだろう。また、山田川流域にある中型・小型墳墓や呉羽山丘陵にある未確定の中型墳墓、素環頭大刀などが副葬された大型方形周溝墓の被葬者については、特定の小地域集団の長やムラ長レベルと考えるのが適当だろうが、墳墓の形態や規模に一定の規則性を見出すことは難しく、課題が残される。

移動する首長権

首長墓である大型の四隅突出型墳丘墓は、特定の墓地に集中することなく、転々と場所を変えるように営まれている。また、山田川流域では各墓地に対応する集落遺跡が確認されているが、集落間には目立った格差は認められず、その関係は互いに等質的だったと推測される。これらの点から察するに、首長は特定集団によって世襲的に継承されたのではなく、呉羽山丘陵と山田川流域の小地域集団の間で互選されていた可能性がある（図1）。また、大型墳墓と中型墳墓・小型墳墓・大型方形周溝墓の数量的なバランスからすると、首長は在位中、婦負地域の全体統括と自らが属する小地域集団の指揮を兼務していたとも考えられる。以上のような首長権の流動性や、小地域集団の代表から切り離されていない状況から推察すると、この段階の首長にはまだ絶対的権力は想定できない。したがってここでいう首長は、他を超越する古墳時代の首長とは大きな開きがある。

いずれにせよ、四隅突出型墳丘墓が定着し継続されたことは、婦負地域の首長主導による共同体運営が長く安定していたことを示唆している。首長権の移動は集団間や集団内部

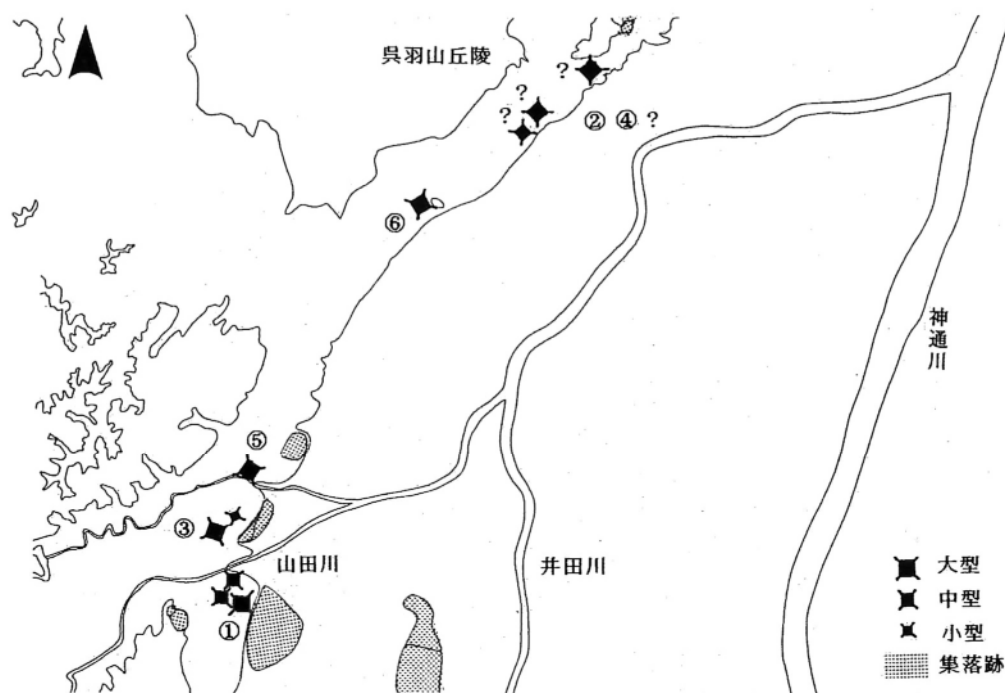
の抗争を抑制しただろうし、またシンボル化した墳墓は共同体の紐帯を強化し、首長の権威を内外に向けて視覚的に示すのにも有効であったろう。等質的集団が寄り合う婦負社会を円滑に運営するには、四隅突出型墳丘墓の造営が重要な役割を果たしていたに違いない。

なお、大型墳墓の数から首長の在位期間を試算すると、四隅突出型墳丘墓の築造期間を約 100 年間とした場合、4 基 4 代で約 25 年、未確定の大型墳墓 2 基を含めるとするならば 6 基 6 代で約 20 年程度と推定される。

まとめ

古墳出現期の婦負社会は、四隅突出型墳丘墓というシンボルを抛りどころとした強固な紐帯の上に成り立っていた。こうした土壌を考えれば、この地域で県内最初的大型前方後方墳の築造がなされたことも極めて自然な流れであったといえる。

婦負地域の墳墓の調査は史跡保護の観点から最小限の調査に留めており、それゆえ掌握されている情報には限界がある。こうした現状において、首長権や社会構造について憶測を重ねることには問題も多いだろうが、本稿ではあえて仮説として挙げてみた。今後、墳墓の実態把握は勿論、集落や出土遺物を含めた実証的手法により仮説を実像に近づけていく必要性を感じている。



	山田川流域	呉羽山丘陵
法仏Ⅱ式期	① 富崎墳墓群 3 号墓	
月影Ⅰ式期	③ 鏡坂墳墓群 1 号墓	(②④? 呉羽山丘陵 No. 10 号古墳・No. 18 号古墳)
月影Ⅱ式期	⑤ 六治古塚墳墓	
白江式期		⑥ 杉谷 4 号墳

図1 大型四隅突出型墳丘墓にみる首長墓変遷の試案

※数字は首長権の推定移動順序で、図と表は一致する

※表の () 内は四隅突出型墳丘墓の可能性のある墳墓